

摩耶兵庫高校昼間部検討会報告書

平成 20 年 12 月

摩耶兵庫高校昼間部検討会

目 次

1	はじめに	1
2	検討の内容	2
1.	昼間部の必要性	2
2.	対象生徒像、教育理念、教育目標について	4
3.	教育内容・方法について	5
4.	課程、募集定員、教育課程について	6
5.	時程について	8
3	おわりに	10
	資料	11

1. はじめに

昼間定時制高校の設立については、本市高校教育改革の指針である平成 6 年の神戸市教育懇話会の提言で触れられ、その後、昨年度まで実に 15 年の歳月をかけ検討が重ねられてきた。

本市教育委員会では、平成 13 年に設置した「神戸市立定時制教育研究会」で中学校側の委員を加え本格的な検討に入った。翌年の平成 14 年には「神戸市立定時制・別科教育の在り方研究・検討会」を、また平成 15 年度からは「昼間定時制教育研究会」を開設し、今後の方向性として、次の 3 点を確認した。

- ・ 1 つの学校で多様化している生徒すべてのニーズに応えることは極めて困難であると思われるが、できるだけ多くの生徒のニーズに応えることのできる昼間定時制をめざしていくべきであること。
- ・ 夜間定時制のニーズと役割を十分に認識しつつ、昼間定時制高校への市民の期待や中卒者の進路未定者の進路保障の観点からもまず 1 校の昼間定時制高校をできるだけ早期に作ること。
- ・ これまでの議論されてきた昼間定時制高校の生徒像、学校像、教育内容に対する多くの意見や提言、要望や期待を十分に踏まえながら、神戸らしい昼間定時制高校を設置すること。

その後さらにこの方向性に基づき、独立校舎を持つ摩耶兵庫高校に昼間部を設置するという前提で、「摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会」を摩耶兵庫高校と市教委事務局との共催で設置し、昼間部設置の際の対象生徒像、教育理念・方針・目標、教育内容・教育システム（学校の形態）、施設設備の教育諸条件などの基本計画を描いたが、おりからの震災後における行財政改革の流れの中で実現できなかった。

市の財政状況は、震災後の職員の給与削減や事務事業の総点検を行うなどにより相当の改善をみてきたが、将来の少子高齢化社会の到来、経済の低成長時代を受け、平成 16 年度より平成 22 年度までの間に、このような時代の変化に則した事務事業の再構築を行うことを目的とした行政経営方針が策定され、計画的な行財政基盤の確立をめざすこととなっている。加えて、本年 6 月に出された行政経営方針の中間検証で、さらなる行政改革の必要性が指摘され、依然本市を取り巻く社会的経済的状況は厳しいものがある。

この間、兵庫県教育委員会では定時制高等学校の適正配置・活性化方策を検討し、これまでの定時制の枠を大きく転換し、生涯学習機関としての機能も有した、昼間部・夜間部を持つ多部制・単位制高校を設置するとともに、周辺の夜間定時制高校を順次募集停止にしている。神戸地区についても、東神戸高校の閉校、西宮香風高校への再編（東神戸高校、武庫高校、尼崎南高校、市立西宮西高校の再編統合）という動きが見られた。

本検討会は、このような厳しい行財政改革の中で、いかにして長年検討してきた昼間定時制を設置できるのか、摩耶兵庫高校基本計画検討会の検討内容を基に様々な条件を踏まえ、改めて必要性の検証、方向性、計画内容を現実的に検討する目的で設置したものである。

2. 検討の内容

1. 昼間部の必要性

(1)夜間定時制高校の生徒実態

平成6年の神戸市教育懇話会報告書では、「夜間定時制高校が、昼間働く青少年に対して平等な教育機会を提供するという重要な役割を担ってきた。今日、その伝統的な役割は小さくなる一方で、学力不振、不登校、高校中退経験など、様々な事情を抱えた生徒に学習の場を提供するという全日制高校の補完的役割が拡大してきている」ことと、「定時制高等学校は（中略）生徒指導・教科指導上の課題に粘り強く対応しようとしているが、事態を打開する方向を見出すまでには至っていない」という現状分析を行っている。

この報告書から15年を経過し、現在の夜間定時制生徒の現状は、中学3年間で計100日以上欠席をした不登校の経験者が入学者全体の37.2%を占める実態がある。また他校中退経験者6.4%、障がい認定者は5.2%、外国人が3.0%、特に最近ニューカマーと呼ばれる1980年代以降に来日し、定住した外国人を保護者とする子どもたちも増えている。さらには成人特例入学者選抜を活用しての成人の在籍、とりわけ高齢者が2.6%というふうに、在籍している生徒が非常に多様化している。経済的に厳しい家庭状況におかれている生徒も多く、授業料減免を受けている生徒の比率は50.2%と、全日制に比べて高い比率にのぼる。また在籍者の

就労率もアルバイトを含め 48.5%と、約半数にとどまり（「平成 19 年度神戸市高等学校定時制教育振興会総会資料」等より）、勤労青少年の教育の機会の確保という夜間定時制課程本来の役割が変化し、生徒にとって定時制教育の場が、「多様な生徒の学び場」、「再チャレンジの場」、「生きる意欲を引き出す場」など、その意義が多様化していると言える。

(2)定時制高校のニーズ

神戸市内の定時制高校 6 校の入学定員充足率は、近年では長田商業高校が比較的高めの充足率を保っているものの、その他の高校は例年 4 月に行われる再募集を終えても定員充足が難しい状況となっている。摩耶兵庫高校においても比較的高めの充足率で推移しているとはいえ、今年度は 75%となり平成以後 3 番目に低い状況となっている。一方、多部制高校である西宮香風高校の昼間部に当たる 1、2 部は、共に開校以来、常に 2 倍を超える競争率となり、神戸市内からも、ここ 3 年 100 名弱の生徒が受検し、その半程度しか入学できていない。

昼間定時制は、不登校経験者の生活リズムを整え、学校と企業や行政機関など種々の社会機関との連携で体験的な学習内容を取り込みやすくなることや、障がい者や高齢者にとって登下校の安全性が高められるといった利点がある。定時制高校進学者の大部分が、就職せずに進学してくることや、進路未定者が例年 100 名を越えていることにより、中学校長会からも平成 9 年以後毎年、昼間定時制高校の創設に対する強い要望が市教委に上げられている。加えて、同様の事情を抱える他の政令指定都市においても、そのほとんどで昼間部を持つ定時制高校を開設している現状がある。

(3)昼間部を摩耶兵庫高校に設置することの意義

摩耶兵庫高校を除く市内定時制 5 校は、全て他の課程との併設校で、このうち楠高校は中学校との併設校となっている。こうした併設校では施設の共用による時間的制約によって利用が限られ、実質的な教育活動が制限されるといった課題を抱えている。

一方、県下の多部制高校は、西宮香風高校、飾磨工業高校が 3 部制、西脇北高校が 2 部制（平成 21 年度より 3 部制に改編予定）で、いずれも単独校舎を有している。多部制高校が生徒の学習ニーズに対し、部をまたがって柔軟に対応できるシステムを持てるのは、こうした単独校舎の環境があるからである。摩耶兵庫高

校は神戸市内の定時制で唯一単独校舎を有し、交通至便の地でもあることから、昼間部を設置する環境が整っていると云える。

(4)検討会での確認事項

本検討会では以上の状況を確認した後、各委員からも「不登校生は夢を見つけ、生活を改善するために昼間の高校で再出発したいと思っている。現状では本市に昼間定時制高校がないため、そうした子どもたちは他市にある昼間定時制高校を希望せざるを得ない。しかし近隣の西宮香風高校は入学検査の競争倍率が高く、本市の子どもたちのニーズを受け止めきれていない現状がある。」また、「昼間部はそうした不登校生のためだけでなく、神戸市における未就学者のためにも意義がある。」などの意見交換の後、昼間部は必要であるとの認識を得て、環境の整っている摩耶兵庫高校に設置することを前提に検討することを確認した。

2. 対象生徒像、教育理念、教育目標について

(1)摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案の内容

対象生徒像については、とりわけ学ぼうという意欲がありながら人間関係等でつまづくなど、本人の精神的な要因で不登校となった者を主な対象生徒像として示すことで、神戸らしい昼間部としての特色化を図る意図をもっている。

生徒像が定まれば、それに対応するための学校像が定まってくることから、最も時間をかけて検討され、外部連携を活用した「大きな学校」という構想を持たせている。

教育理念については、校外の教育力を活用する「大きな学校」で、彼らの人間関係に良好な刺激を与え、コミュニケーション能力の育成や向上を4年かけてじっくりとめざすこととしている。

教育目標については、主に進路保障の立場からどのような生徒として育てるのかという観点で目標を焦点化し、「基礎学力の定着・向上」、「人間関係能力の育成」の2点を掲げている。

(2)検討内容

(教育理念)

- ・ 昼間定時制高校でも基本的な心の育成をメインに据えた教育を望む。とりわけ「人間関係、コミュニケーション能力の育成」を大事にする必要がある。

- ・ 昼間部の教育で心を開くきっかけを見つけ、自分の存在というものを認められることで生徒に自信をつける必要がある。
- ・ 社会と連携して教育する「大きな学校」というシステム上の発想は、社会の多様性を知る上で重要で、特に不登校の生徒には意義がある。
- ・ 「大きな学校」という表現が誤解されないよう、その内容をわかりやすく明示する必要がある。
- ・ 未就学者対策としての昼間定時制高校には息苦しきのない、ゆったりとした環境が必要である。
- ・ 人間関係能力は、多様な生徒の学習集団によって育まれていく側面もある。

(教育目標)

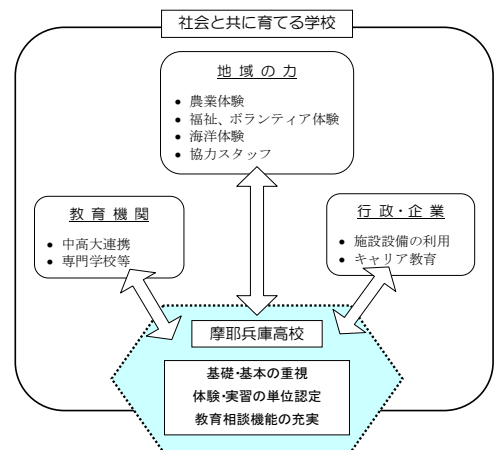
- ・ 教育目標には中学での進路指導を補完するような内容を盛り込む必要がある。

(3)検討会のまとめ

対象生徒については、現在の入試制度上、現実には対象生徒を十分に絞り込めないということ、また現状の夜間高校のように多様な生徒がいるからこそその教育効果もあるという点を踏まえた表現とする必要があることや、学校アピールの根幹となる表現として適切なものとするのが望まれる。

教育理念については、社会の諸機関と連携しながら教育活動を推進するというコンセプトを前面に打ち出し、中学生にも理解しやすく魅力的な表現とするため、「社会と共に育てる学校」という明確な表現にし、この理念の中に対象生徒像を取り込む形で整理した。

なお学校イメージとしては右図の通りである。



3. 教育内容・方法について

(1)摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案の内容

教育目標を達成するためには、定時制高校らしいきめ細かな対応によって、学力の定着を図るとともに人間関係能力の育成などの基礎的事項を定着させることが重要だと考え、個々の生徒の状況に対応できるよう、教育内容・方法として、「基礎基本を重視し、体験・実習的学習を行う」「人間関係能力の向上を目指す取組み

を行う」という2点を掲げている。

具体的には、不登校生の学習不安を払拭するため、少人数授業による基礎・基本の定着、可能性と興味関心を伸ばすための情報科目等の選択科目や図書館の整備、また資格取得で自信をつけ、体験学習でコミュニケーション能力を身につけるといった段階的な学習方法を想定している。

(2)検討内容

- ・ 個別支援はどんな学校にも必要であるという観点から、現在摩耶兵庫高校では、「基礎学力定着」と「コミュニケーション能力育成」を目指し、大学院生のサポートも得ながら取り組んでおり、このような方法を昼間部においても実施する必要がある。
- ・ 「対象生徒像」や「教育理念」と関連しており、「心」「居場所」といったキーワードを観点に昼間部を考えたらよい。
- ・ 中学校で急増する不登校生のほとんどは小学校での経験者であることから、小学校段階からの連携継続的な指導を昼間部に期待する。

(3)検討会のまとめ

教育内容や方法については、摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案の考え方に基づき、実際の教育活動の具体的な内容として教育課程を作成する中で、学校において検討を進めるのが望ましいと考える。

4. 課程、募集定員、教育課程について

(1)摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案の内容

課程は、外部機関との連携など校外で実施する教育活動を単位として認定できるシステムを念頭に、単位制としている。4年という定時制本来のリズムの中で生徒をゆっくりと育てようとの考えにもとづき、昼間部についても4年修業とし、学期は3学期制としている。

募集定員については、現在の摩耶兵庫高校の施設環境で教育活動を行うことを前提として、生徒の抱える教育課題に十分に向き合うことができるように、まずは40人(1クラス分)で設置するとしている。

教育課程は、必修科目を最小限にして、生徒の関心を伸ばせるような選択科目が多く用意され、コミュニケーションスキルを高める体験的な学習を取り込むこ

となどで、生徒に卒業後の生きる力を育てたいという視点を具体化している。

1年次を導入期として基本となる科目を置き、野外実習の部分でコミュニケーションの基礎基本を学ぶ。2、3年次は1年次の成果をベースに力を高め、4年次は発展応用の時期と位置づけた教育課程としている。各年次4単位の体験実習科目を置いている点が特色となっている。

卒業までに必ず学ばねばならない必修科目の内、英語、数学等基礎学力の定着のための科目については、国が定める標準単位より多く学ぶようになっている。また、コンピュータに興味が集まるだろうとの想定のもと、資格取得を含めた情報科目を多く学べるようにしていることなどが主な特徴となっている。

(2)検討内容

(課程)

- ・ 単位制は、生徒実態に見合う機関との連携が容易で、校外活動や資格取得の単位認定にも対応できる利点があると考えられる。
- ・ 単位制では留年のリスクはないものの4年間での卒業を考えるならば、未修得科目を多く重ねることはできない。実際には学年制とほぼ同じ動きとなり、教育課程にも単位制本来の運用が表れていない。

(募集定員)

- ・ 募集定員は、施設環境を考慮すれば当面は1クラス規模が妥当であるが、入試の動向も見据えながら将来的には2クラス程度も期待する。
- ・ 他にない新しい学校であることを前面に押し出すような定員設定を考えてもいいのではないか。

(教育課程)

- ・ 教育課程は、体験が将来像を作る機会となるが、生き方やコミュニケーション能力にどう結びつけるかという教育方法や、体験と基礎学力育成枠とのバランスが必要である。
- ・ 3年修業制を導入している定時制高校が多いが、摩耶兵庫高校昼間部でも検討する必要があるのではないか。

(3)検討会のまとめ

課程については、ホームルーム単位での活動を中心とする現実の学校運営を想定すれば、学年制とすることが望ましく、進級要件を考慮したり、校外及び課外

の活動についての単位認定についても柔軟に対応することで、4年修業の単位制と近い学校運営ができるのではないかと考えられる。

募集定員については、「40人」とし、将来的には入試の状況を考慮して対応していく必要がある。

教育課程については、体験実習的な科目と基礎基本学習的な科目とのバランスを重視することが望ましいと考える。各種検定での資格取得を目標にした資格関連科目や近隣教育機関との連携講座科目の開設など、学力不安を抱える中学生にとっても安心できる教育課程となることが望ましいが、体験の具体的な中身などは、今後、新しい発想で担当教員により研究していくことが求められる。体験的科目の内容を教科科目としての単位認定するような研究も期待される。また、3年修業の教育課程

については、通信制課程との併修を活用することなどが考えられる。

なお、教育課程の一例としては右表の通りである。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1年	国語総合	数学Ⅰ	英語Ⅰ	保健	情報A	音楽Ⅰ		体育	国語理解	数学理解	英語理解Ⅰ	社会体験・文化・体育活動	習の時間	総合的な学習の時間	L	H	R			
						美術Ⅰ	書道Ⅰ													
2年	国語総合	理科総合A	保健	世界史A	体育	英語Ⅰ		歴史理解	国語表現Ⅰ	資格関連科目	社会体験・文化・体育活動	習の時間	総合的な学習の時間	L	H	R				
3年	理科総合B	日本史A	家庭基礎	体育	現代社会		古典購読	オールコミュニケーションⅠ	資格関連科目	社会体験・文化・体育活動	習の時間	総合的な学習の時間	L	H	R					
4年	現代文	現代文	美術Ⅱ	英語理解Ⅱ		社会福祉基礎	ビジネス基礎	高大・高専連携講座科目	高大・高専連携講座科目	社会体験・文化・体育活動	習の時間	総合的な学習の時間	L	H	R					
	リーディング	リーディング	情報C	数学A																

5. 時程について

(1) 摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案の内容

通学での生徒の負担を緩和し、生活習慣の立て直しのための昼食時間を設定している。さらに、夜間部の生徒が4時過ぎに登校している現状から、昼間部と夜間部の双方の教育活動が重ならず、部活動時間も確保するという点を考慮して、昼間部の始業を10時30分、終業を14時40分としている。

(2) 検討内容

基本計画検討会案については、課題として以下の意見が出た。

- ・ 全日制と差異なく、朝が弱い傾向にある不登校経験生徒に配慮するという特徴的な昼間定時制とはならない。
- ・ 不登校生について個別対応をしている中学での実態からすると指導の継続性

が図れない。

- 一律に 10 時半登校を求めるのは、学校不適応での退学率の現状から見ても無理がある。
- 昼をまたぐと肝心の社会と連携した教育活動がしにくくなる。
- 今の夜間部での取り組みを大事にすることと、昼間部へ入学する子どもたちの負担を軽減するという観点を考慮するとともに、教員の負担にも配慮してほしい。

以上のような課題を解決する方向性として、不登校生の登校時間への配慮や、社会と連携した教育活動への配慮の観点から、午後から昼間部を開始する例として 13 時 20 分始業、16 時 40 分終業とする時程（下図）とともに、現在の摩耶兵庫高校の教育体制が 4 クラスの生徒数に対応したものであることを踏まえ、その体制で教員の負担を変えずに昼間部を運営するため、現行の夜間部 4 クラスを昼間部 1 クラスと夜間部 3 クラスとする

修正案について検討を行ったところ、

昼間部					夜間部				
13:20	14:10	15:05	15:55		17:30	18:30	19:25	20:15	
1限	2限	3限	4限	部活動等	1限	2限	3限	4限	部活動等
14:05	14:55	15:50	16:40		18:15	19:15	20:10	21:00	21:45

以下のような意見が出た。

- 2 つの部の間が短く、昼間部と夜間部の登下校時間が重なることによる生徒指導上の危惧がある。
- 昼間部と夜間部の独自性、独立性が保てない。
- 教員の会議等の時間や早めに登校する夜間部生の居場所などの設定が難しい。
- 社会生活への準備期間として、午後始業というのは甘すぎるのではないか。

(3)検討会のまとめ

摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案では、現状の夜間部 4 クラスをそのまま維持した上で、さらに昼間部 1 クラスを加えて行うこととなっているが、その場合当然相応の教員数を増員する必要がある。これは午前始業、午後始業に関わりなく同様であり、そのことが本市の厳しい財政状況の下、今日まで昼間部の設置が実現できなかった一つの要因であったと考えられる。そのため本検討会では、夜間のクラス数まで議論する必要はないとの意見もあったが、本市を取り巻く厳

しい社会状況の下で早期に昼間部の開設を行おうとする本検討会の目的からすると、検討すべき問題であったと考える。

また午前開始案と午後開始案については、それぞれの主張に妥当性が感じられ、明確にどちらが優れているとは簡単には判断できなかった。この議論を整理するため、本検討会では改めて摩耶兵庫高校の意見を聞くための説明会を開催した。摩耶兵庫高校からは、午後開始案では昼夜間部の生徒の重なりの問題による生徒指導上の懸念や、それに伴う教育水準が維持できるのかという不安について意見があった。しかし現在の市の財政状況では昼間定時制を開設するに際して、教員の増員は現実には厳しい状況であり、基本的に現状の教員数をベースに開設することを念頭において、教員全員の力を結集できる体制としてふさわしい時程を摩耶兵庫高校の教員の懸念に配慮して検討していく必要がある。

今後、本検討会で出たゆとりある教育環境の整備について工夫配慮を求めるとの意見を踏まえて、昼間部の具体的な形を定めていくことを求めたい。

3. おわりに

本検討会では、これまでの長い時間で作られた昼間部のあるべき姿が整理されながらも現実の本市財政状況等を勘案して考えねばならなかった。特に午後始業として考えた場合、昼間部と夜間部が近接していることや、早く登校してくる夜間部生の居場所の確保など、いろいろな課題が出された。これらについて本市を取り巻く厳しい状況を踏まえ、引き続き摩耶兵庫高校と市教委でよく協議し、摩耶兵庫高校に昼間部が早期に設置されることを強く祈念する。

委員の方々にはなにかとお忙しい中をお練り合わせいただき、計5回となる濃密な議論をおこなっていただいたご苦勞に対し、心から感謝申し上げたい。報告書では議論のすべてを取り上げることはできなかったが、今後の昼間部の学校運営の詳細を検討する際の指針としていただきたい。

資料編

資料 1	市立高校教育改革の検討経過及び実績	1
資料 2	神戸市内定時制高等学校の概要	1
資料 3	定時制 6 校 充足率 推移	2
資料 4	夜間定時制生徒の現状(平成 19 年度)	3
資料 5	昼間部の必要性	3
資料 6	昼間・夜間定時制における生徒像(典型例)	3
資料 7	政令指定都市における昼間定時制高校の状況(平成 20 年 6 月現在)	4
資料 8	不登校児童生徒数(30 日以上欠席者)	5
資料 9	不登校生児童生徒数(30 日以上欠席者)の推移	6
資料 10	不登校生児童生徒(30 日以上欠席者)の割合の推移	6
資料 11	不登校となったきっかけと考えられる状況(複数回答)	7
資料 12	学年別不登校児童生徒数(30 日以上欠席者)	8
資料 13	(参考)全国昼間部設置定時制高校の日時程例	8
資料 14	平成 17 年度摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案 (課程、募集定員、教育課程) (1)	9
資料 15	平成 17 年度摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案 (課程、募集定員、教育課程) (2)	10
資料 16	時程についての考え方	11
資料 17	「摩耶兵庫高校基本計画検討会案」と「第 2 回以後の 議論を受けた検討案」	12
資料 18	摩耶兵庫高校昼間部検討会要綱	13
資料 19	摩耶兵庫高校昼間部検討会 委員名簿	14
資料 20	摩耶兵庫高校昼間部検討会審議経過	15

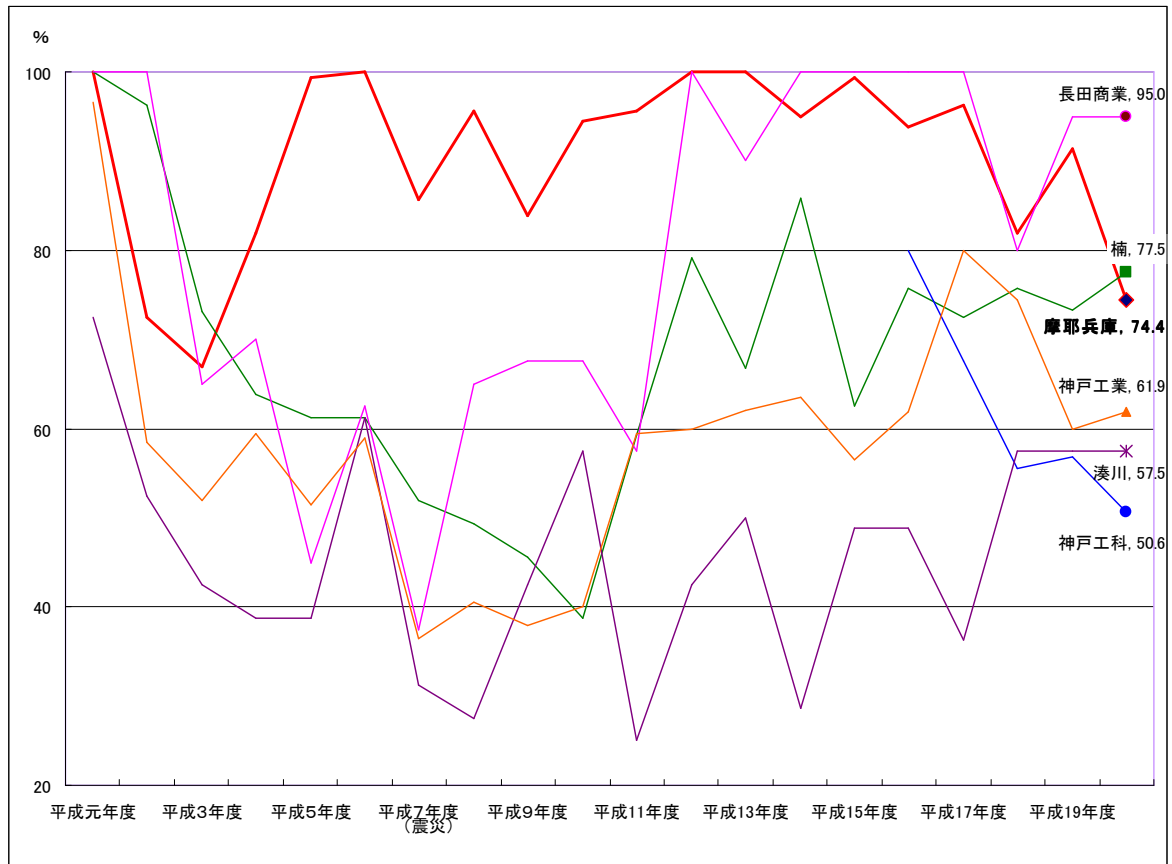
資料 1 市立高校教育改革の検討経過及び実績

	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	
全体	「神戸市教育懇話会」							「市立高校の将来像調査研究会」											
第1・芦屋学区			「新構想高校検討委員会」				●六甲アイランド高校開校 (普通科総合選択制)	「葦合高校将来像検討委員会」		●葦合高校国際科設置				●六甲アイランド高校 (単位制移行)					
第2学区													「神港高校・兵庫商業情報交流会」						
第3学区									●須磨高校／類型導入		●神戸西高校／類型導入			「須磨高校・神戸西高校在り方検討会」					
														●特色選抜・複数志願選抜導入					
														「第三学区市立高校基本計画検討会」					
															「第三学区新高校実施計画検討会」				●須磨翔風高校開校
工業					「神戸市高等学校工業教育検討委員会」		「新工業高校基本計画検討会」							●科学技術高校開校					
														●神戸工科高校開校					
定時制										「神戸市立定時制教育研究会」									
														「神戸市立定時制・別科教育の在り方研究・検討会」					
														「昼間定時制教育研究会」					
														「摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会」		「摩耶兵庫高校昼間部検討会」			

資料 2 神戸市内定時制高等学校の概要

	学校名	所在地	学科	定員	設置	沿革	備考						
神戸市立	摩耶兵庫	神戸市中央区東川崎町1-3-8	普通科	160	S45	S18 市立第二中学							
	楠	神戸市兵庫区松本通1-1-1	普通科	120	S24	S18 市立第二女子商業	湊川中学と併置						
	神戸工科	神戸市中央区脇浜町1-4-70	工業技術科	160	H16	S38 市立御影工業 S55 市立長田工業	科学技術高校と併置						
兵庫県立	湊川	神戸市長田区寺池町1-4-1	普通科	80	S23	S4 県立第二神戸夜間中	県立兵庫高校と併置						
	神戸工業	神戸市兵庫区和田宮通2-1-63	建築科	40	S23	M45 県立工業夜間部	県立兵庫工業高校と併置						
			機械科	40									
			電機科	40									
			情報技術科	40									
長田商業	神戸市長田区池田谷町2-5-1	商業科	40	S28	S3 県立第二神戸商業	県立長田高校、県立青雲高校と併置							
		情報経理専修コース	40										
(参考)	多部制	西宮香風	西宮市建石町7-43	普通科単位制	I部 80	H13	東神戸(神戸)、武庫(芦屋)、県立尼崎南(尼崎)、市立西宮西の再編統合						
					II部 80								
					III部 120								
2部制	西脇北	西脇市郷瀬町669-32	普通科	昼 40 夜 40	S45	S23 西脇工業定時制							
								飾磨工業	姫路市飾磨区細江319	基礎工学科	I部 80	H15	城北(姫路西)、白鷺工業(姫路工業)、姫路産業技術(飾磨工業)の再編統合
											II部 40		

資料 3 定時制 6 校 充足率 推移



	摩耶兵庫	楠	神戸工科	湊川	長田商業	神戸工業
定員	160	120	160	80	40	160
平成元年度	100	100		72.5	100	96.5
平成2年度	72.5	96.3		52.5	100	58.5
平成3年度	66.9	73.1		42.5	65.0	52.0
平成4年度	81.9	63.8		38.8	70.0	59.5
平成5年度	99.4	61.3		38.8	45.0	51.5
平成6年度	100	61.3		61.3	62.5	59.0
平成7年度	85.6	51.9		31.3	37.5	36.5
平成8年度	95.6	49.4		27.5	65.0	40.5
平成9年度	83.8	45.6		42.5	67.5	38.0
平成10年度	94.4	38.8		57.5	67.5	40.0
平成11年度	95.6	59.2		25	57.5	59.5
平成12年度	100	79.2		42.5	100	60.0
平成13年度	100	66.7		50	90	62.0
平成14年度	95.0	85.8		28.7	100	63.5
平成15年度	99.4	62.5		48.8	100	56.5
平成16年度	93.8	75.8	80.0	48.8	100	61.9
平成17年度	96.3	72.5	67.5	36.3	100	80.0
平成18年度	81.9	75.8	55.6	57.5	80	74.4
平成19年度	91.3	73.3	56.9	57.5	95	60.0
平成20年度	74.4	77.5	50.6	57.5	95	61.9

楠 平成11年度より160人→120人 神戸工業 H16年度より200人→160人

(兵庫県教育委員会発表資料より)

資料 4 夜間定時制生徒の現状(平成 19 年度)

夜間高校の元々の目的は、昼間就業している人の教育機会の確保 → 現在は多様な生徒の学び場になっている。	
(入学者比率) ●不登校経験者* 37.2% ●他校中退 6.4% ●障がい者 5.2% ●外国人 3.0% ●高齢者 2.6% *「不登校経験者」とは、中学3年間で 計100日以上欠席した者を指す	(在籍者比率) ●有職者 48.5% (うち正社員 3.5%) ●無職者 51.5% 経済的困窮者(学費減免) 50.2% (全日制は25.6%) *18年度数値
(神戸市立高等学校定時制教育振興会総会資料、調査課、各校資料より)	

資料 5 昼間部の必要性

<ul style="list-style-type: none"> ● 不登校経験者への対応 ——社会生活に対応できる生活リズムの確立、自立 ● 夜間授業の制約 ——昼間時における幅広い各種連携・体験など ● 安全性確保、昼間通学による健全育成の視点 ——障害者・中高齢者など ● その他学習者のニーズ ——在校生の現状(勤労状況等)、他都市における昼間定時制の競争率、中学の要望等 					
西宮香風高校 入学検査倍率・合格者数	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
(Ⅰ部、Ⅱ部)	(2.31、2.08)	(2.08、2.02)	(2.54、2.04)	(2.04、2.06)	(2.50、2.02)
(Ⅲ部)	(1.10)	(1.08)	(0.98)	(1.10)	(0.89)
神戸市出身合格者数／志願者数 (ⅠⅡ部のみ)	31/58	47/95	43/86	47/95	34/65
(西宮香風高校学校要覧、兵庫県教育委員会発表資料より)					

資料 6 昼間・夜間定時制における生徒像(典型例)

	昼間部	夜間部
主な対象者	全日制的フレームに馴染まない者	昼間に高校へ通学することができない者
対象者具体例	不登校、他校中退、障がい者、中高齢者など	勤労学生、一般社会人など
全日制に対する制約要因	心理的・医学的要因など	時間的制約、昼間通学への心理的制約など
教育目的	高校教育を受ける機会の確保 再チャレンジ 生涯学習 社会適応力向上など	
教育内容	4年間かけてじっくり時間をかける学習システム 意欲を引き出すきめ細やかな手厚い指導	

資料 7 政令指定都市における昼間定時制高校の状況(平成 20 年 6 月現在)

都市	市立高校数	夜間(内数)	昼間(内数)	昼間部設置状況
札幌市	9	5	2	北海道札幌星園(せいえん)高校(T14年) 昼間部開設(s48年) 昼夜各8c計16クラス H19年度で募集終了 H20年4月 札幌大通高校開校 (3部制・単位制・1学年 320名) ※H22年4月 周辺4校の定時制(星園含む)を札幌大通高校に統合予定
仙台市	6	2	0	予定 H18年7月14日「新定時制高等学校基本構想」 ●H21年 仙台函南萩陵(となんしゅうりょう)高校=(現在は夜間定時制高校) →改編予定(普通科・昼3c夜1cの2部制・単位制) 仙台第二工業高校(夜間定時制)→規模縮小仙台工業の夜間課程に統合予定
新潟市	3	1	1	明鏡高校(H10年～午前部、夜間部)
さいたま市	4	0	0	
千葉市	2	0	0	
川崎市	5	5	0	予定 H19年7月「市立高等学校改革推進計画」 ●2部制・学年制の定時制を、川崎高校(普)、総合科学高校(商・工)で検討中
横浜市	9	2	1	横浜総合高等学校 H14年開校 3部制・総合学科 各部120名募集
静岡市	3	1	0	現状:普通科夜間1クラス規模で在籍率が50%以下 →募集停止も視野に入れつつ、県立の昼間・通信制併習を積極的に導入。 昼間部設置予定なし H20.1静岡市内公立高校共同再編計画(県・市)
浜松市	1	0	0	
名古屋市	14	2	1	中央高等学校(定時制単独校) H11年昼間部設置 昼間2部(単位制)+夜間部(普・商、学年制)・・・実質3部制 1年次7クラス・280名(昼160名・夜普80名・商40名) H16年～市民の声により、夜間を減して昼増実施
京都市	9	3	1	H19年 伏見工業高校昼間部開設 3修制 (全日制160名、昼定時制3年制30名、夜間4年制単位制30名) 洛陽高校・伏見工業高校の夜間定時制課程を再編統合 ※H16年10月～ 不登校生を対象とした市立洛風中学校設置
大阪市	23	3	1	H14年 中央高校昼間部開設 H18年度 学年制課程(夜間)募集停止 →昼夜間単位制高校(朝から夜まで)へ一元化
堺市	5	3	0	H20年 堺高校開校(全定併置)←堺工、堺第二工募集停止
神戸市	10	3	0	
広島市	8	2	0	予定 H15年3月 将来構想検討委員会最終報告提言 ●多部制・単位制高校設置予定 大手町商業高校・広島工業高校の統合、既に統合に備え、 両校とも、単位制・3修制・2学期制を導入
北九州市	1	0	0	
福岡市	4	0	0	
東京都	203	80	12	H16年 大江戸高校、六郷工科高校開校 H17年 砂川高校、六本木高校開校 H19年 八王子拓真高校、荻窪高校、稔ヶ丘高校開校
兵庫県			3	H13年 西宮香風高校開校 1学年7クラス(I部2c、II部2c、III部3c) H14年 飾磨工業高校多部制開設 1学年6クラス(I部2c、II部1c、III部3c)全定併設校 H11年 西脇北高校昼間部全学年を午前中に固定 1学年2クラス(昼間部1c、夜間部1c)

(神戸市教育委員会調べ)

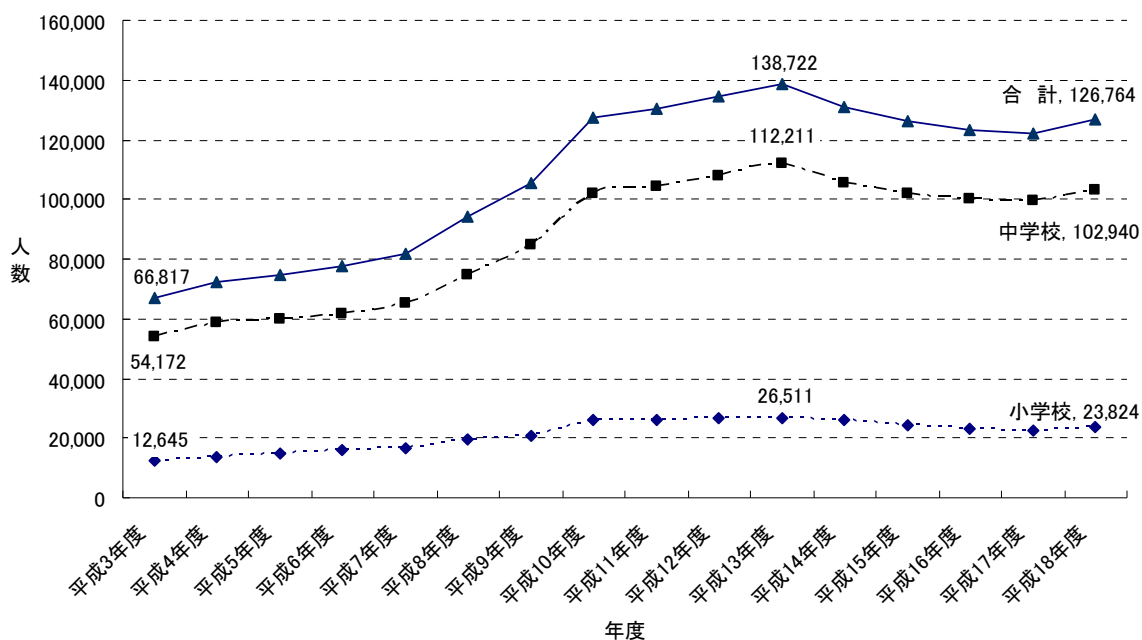
資料 8 不登校児童生徒数(30日以上欠席者)

区分	小学校			中学校			計		
	(A)全児童数(人)	(B)不登校児童数(人) B/A×100(%)	不登校児童生徒数の増減率(%)	(A)全生徒数(人)	(B)不登校児童数(人) B/A×100(%)	不登校児童生徒数の増減率(%)	(A)全児童生徒数(人)	(B)不登校児童数(人) B/A×100(%)	不登校児童生徒数の増減率(%)
平成3年度	9,157,429	12,645 (0.14)	-	5,188,314	54,172 (1.04)	-	14,345,743	66,817 (0.47)	-
平成4年度	8,947,226	13,710 (0.15)	8.4	5,036,840	58,421 (1.16)	7.8	13,984,066	72,131 (0.52)	8.0
平成5年度	8,768,881	14,769 (0.17)	7.7	4,850,137	60,039 (1.24)	2.8	13,619,018	74,808 (0.55)	3.7
平成6年度	8,582,871	15,786 (0.18)	6.9	4,681,166	61,663 (1.32)	2.7	13,264,037	77,449 (0.58)	3.5
平成7年度	8,370,246	16,569 (0.20)	5.0	4,570,390	65,022 (1.42)	5.4	12,940,636	81,591 (0.63)	5.3
平成8年度	8,105,629	19,498 (0.24)	17.7	4,527,400	74,853 (1.65)	15.1	12,633,029	94,351 (0.75)	15.6
平成9年度	7,855,387	20,765 (0.26)	6.5	4,481,480	84,701 (1.89)	13.2	12,336,867	105,466 (0.85)	11.8
平成10年度	7,663,533	26,017 (0.34)	25.3	4,380,604	101,675 (2.32)	20.0	12,044,137	127,692 (1.06)	21.1
平成11年度	7,500,317	26,047 (0.35)	0.1	4,243,762	104,180 (2.45)	2.5	11,744,079	130,227 (1.11)	2.0
平成12年度	7,366,079	26,373 (0.36)	1.3	4,103,717	107,913 (2.63)	3.6	11,469,796	134,286 (1.17)	3.1
平成13年度	7,296,920	26,511 (0.36)	0.5	3,991,911	112,211 (2.81)	4.0	11,288,831	138,722 (1.23)	3.3
平成14年度	7,239,327	25,869 (0.36)	▼2.4	3,862,849	105,383 (2.73)	▼6.1	11,102,176	131,252 (1.18)	▼5.4
平成15年度	7,226,910	24,077 (0.33)	▼6.9	3,748,319	102,149 (2.73)	▼3.1	10,975,229	126,226 (1.15)	▼3.8
平成16年度	7,200,933	23,318 (0.32)	▼3.2	3,663,513	100,040 (2.73)	▼2.1	10,864,446	123,358 (1.14)	▼2.3
平成17年度	7,197,458	22,709 (0.32)	▼2.6	3,626,415	99,578 (2.75)	▼0.5	10,823,873	122,287 (1.13)	▼0.9
平成18年度	7,187,417	23,824 (0.33)	4.9	3,601,527	102,940 (2.86)	3.4	10,788,944	126,764 (1.17)	3.7

(注)調査対象:国公立小・中学校

文部科学省:平成18年度生徒指導上の諸問題の現状(不登校)について(8月速報値)
「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(児童生徒課)より

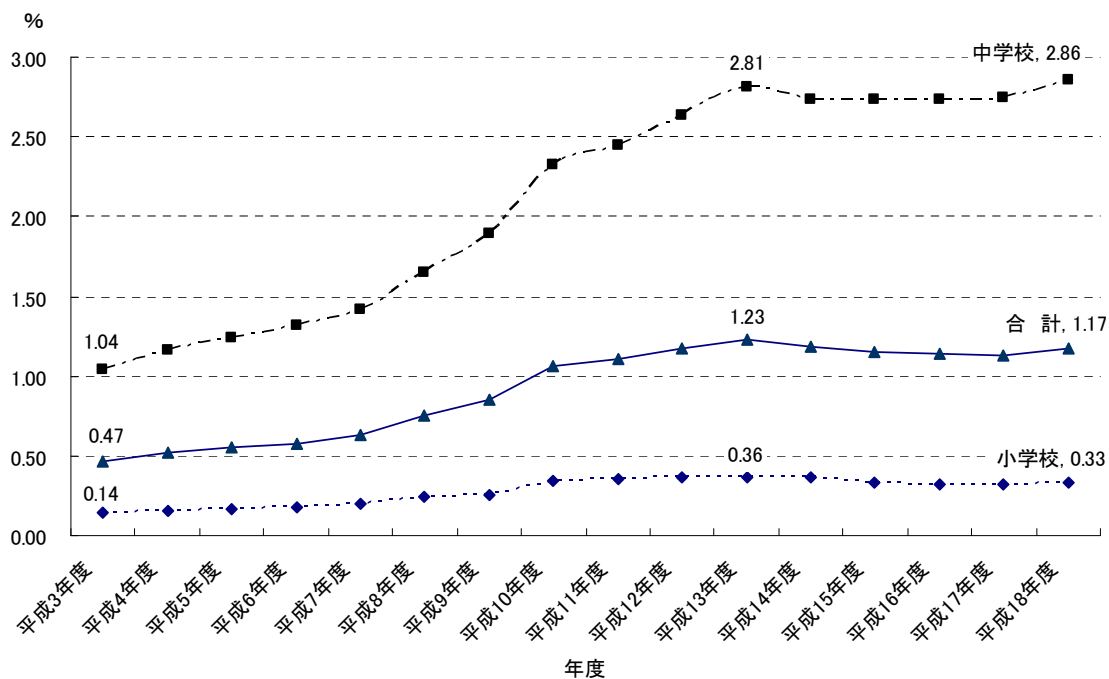
資料 9 不登校生児童生徒数(30日以上欠席者)の推移



(注)調査対象:国公立小・中学校

文部科学省:平成18年度生徒指導上の諸問題の現状(不登校)について(8月速報値)
「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(児童生徒課)より

資料 10 不登校生児童生徒(30日以上欠席者)の割合の推移



(注)調査対象:国公立小・中学校

文部科学省:平成18年度生徒指導上の諸問題の現状(不登校)について(8月速報値)
「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(児童生徒課)より

資料 11 不登校となったきっかけと考えられる状況（複数回答）

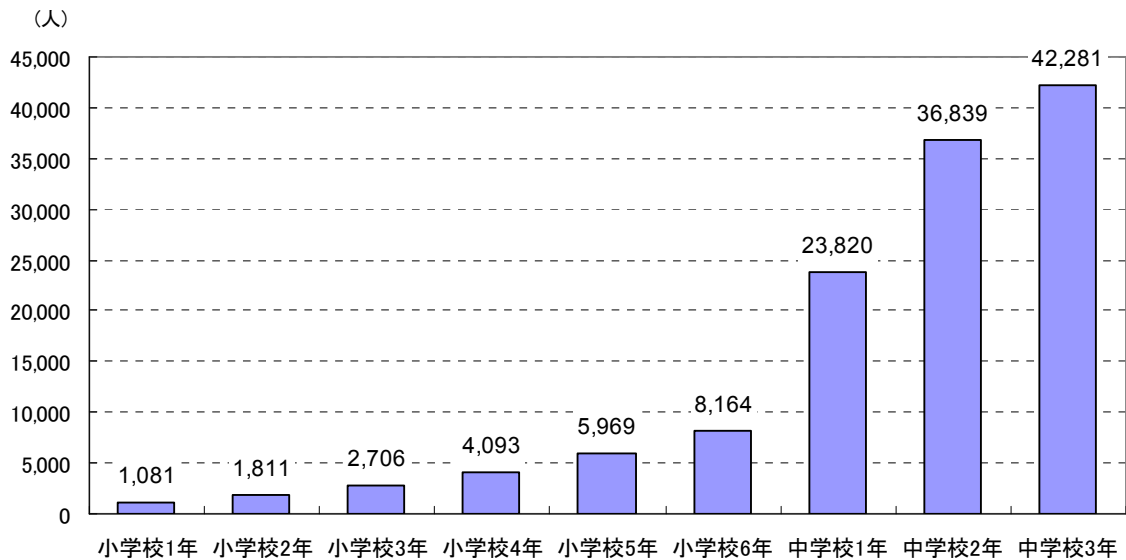
区分	小学校				中学校				計				
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	
学校生活 に起因	いじめ	8 8.8%	748 2.5%	3 2.1%	759 2.5%	16 3.9%	3,809 3.3%	104 3.3%	3,929 3.3%	24 4.8%	4,557 3.1%	107 3.2%	4,688 3.2%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	20 22.0%	2,859 9.7%	19 13.1%	2,898 9.7%	69 16.8%	19,682 17.1%	515 16.1%	20,266 17.0%	89 17.8%	22,541 15.6%	534 16.0%	23,164 15.6%
	教職員との関係をめぐる問題	2 2.2%	775 2.6%	5 3.4%	782 2.6%	7 1.7%	1,600 1.4%	42 1.3%	1,649 1.4%	9 1.8%	2,375 1.6%	47 1.4%	2,431 1.6%
	学業の不振	7 7.7%	1,545 5.2%	3 2.1%	1,555 5.2%	47 11.5%	9,769 8.5%	323 10.1%	10,139 8.5%	54 10.8%	11,314 7.8%	326 9.8%	11,694 7.9%
	クラブ活動、部活動等への不応	0 0.0%	72 0.2%	1 0.7%	73 0.2%	6 1.5%	2,447 2.1%	58 1.8%	2,511 2.1%	6 1.2%	2,519 1.7%	59 1.8%	2,584 1.7%
	学校のきまり等をめぐる問題	0 0.0%	142 0.5%	0 0.0%	142 0.5%	4 1.0%	3,412 3.0%	39 1.2%	3,455 2.9%	4 0.8%	3,554 2.5%	39 1.2%	3,597 2.4%
	入学、転編入学、進級時の不応	5 5.5%	852 2.9%	2 1.4%	859 2.9%	19 4.6%	3,563 3.1%	161 5.0%	3,743 3.1%	24 4.8%	4,415 3.0%	163 4.9%	4,602 3.1%
	小計	42 46.2%	6,993 23.7%	33 22.8%	7,068 23.7%	168 41.0%	44,282 38.4%	1,242 38.9%	45,692 38.4%	210 41.9%	51,275 35.4%	1,275 38.2%	52,760 35.5%
家庭生活 に起因	家庭の生活環境の急激な変化	6 6.6%	2,282 7.7%	14 9.7%	2,302 7.7%	9 2.2%	5,276 4.6%	117 3.7%	5,402 4.5%	15 3.0%	7,558 5.2%	131 3.9%	7,704 5.2%
	親子関係をめぐる問題	9 9.9%	4,203 14.2%	30 20.7%	4,242 14.3%	45 11.0%	9,190 8.0%	327 10.3%	9,562 8.0%	54 10.8%	13,393 9.2%	357 10.7%	13,804 9.3%
	家庭内の不和	2 2.2%	1,348 4.6%	7 4.8%	1,357 4.6%	27 6.6%	4,550 3.9%	118 3.7%	4,695 3.9%	29 5.8%	5,898 4.1%	125 3.7%	6,052 4.1%
	小計	17 18.7%	7,833 26.5%	51 35.2%	7,901 26.5%	81 19.8%	19,016 16.5%	562 17.6%	19,659 16.5%	98 19.6%	26,849 18.5%	613 18.4%	27,560 18.5%
本人の問題 に起因	病気による欠席	5 5.5%	2,088 7.1%	8 5.5%	2,101 7.1%	21 5.1%	7,148 6.2%	268 8.4%	7,437 6.3%	26 5.2%	9,236 6.4%	276 8.3%	9,538 6.4%
	その他本人に関わる問題	17 18.7%	8,946 30.3%	40 27.6%	9,003 30.2%	117 28.5%	36,411 31.6%	789 24.7%	37,317 31.4%	134 26.7%	45,357 31.3%	829 24.9%	46,320 31.2%
	小計	22 24.2%	11,034 37.4%	48 33.1%	11,104 37.3%	138 33.7%	43,559 37.8%	1,057 33.1%	44,754 37.6%	160 31.9%	54,593 37.7%	1,105 33.1%	55,858 37.6%
その他	5 5.5%	2,542 8.6%	7 4.8%	2,554 8.6%	14 3.4%	4,479 3.9%	110 3.4%	4,603 3.9%	19 3.8%	7,021 4.8%	117 3.5%	7,157 4.8%	
不明	5 5.5%	1,127 3.8%	6 4.1%	1,138 3.8%	9 2.2%	3,958 3.4%	218 6.8%	4,185 3.5%	14 2.8%	5,085 3.5%	224 6.7%	5,323 3.6%	
計	91	29,529	145	29,765	410	115,294	3,189	118,893	501	144,823	3,334	148,658	
比率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

(注)調査対象:国公立小・中学校

文部科学省:平成18年度生徒指導上の諸問題の現状(不登校)について(8月速報値)

「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(児童生徒課)より

資料 12 学年別不登校児童生徒数(30日以上欠席者)



(注)調査対象:国公立小・中学校

文部科学省:平成18年度生徒指導上の諸問題の現状(不登校)について(8月速報値)
「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(児童生徒課)より

資料 13 (参考)全国昼間部設置定時制高校の日時程例

【多部制】

1 兵庫県立西宮香風高等学校…他部課程の履修(10単位まで)で3修が可能

I部				II部				III部			
8:45	9:35	10:30	11:20	13:10	14:00	14:55	15:45	17:25	18:15	19:20	20:10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
9:30	10:20	11:15	12:05	13:55	14:45	15:40	16:30	18:10	19:00	20:05	20:55

昼休み 休憩

【2部制】

2 宮城県立貞山高等学校(単位制高校)…昼夜共通の併修課程の履修で3修が可能

昼間部					昼夜共通			夜間部				
10:45	11:40	13:10	14:05	14:50	15:20	16:15	16:50	17:35	18:20	19:10	19:55	20:35
1	2	昼食	3	4	ST・掃除	5	6	給食	1	2	3	4
11:30	12:25	13:55	14:50	15:20	16:05	17:00	17:30	18:15	19:00	19:50	20:35	

3 山梨県立中央高等学校(単位制高校)

昼間部					夜間部						
13:00	13:55	14:50	15:45	16:30	17:10	17:50	18:40	19:30	19:40	20:30	21:15
1	2	3	4	ST・掃除	給食	1	2	ST	3	4	ST・掃除
13:45	14:40	15:35	16:30	16:55	17:40	18:35	19:25	19:40	20:25	21:15	21:25

資料 14 平成 17 年度摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案

(課程、募集定員、教育課程) (1)

課程

【課題】

1. 単位制の検討 (総合学科・普通科)
2. 2学期制の検討

【課題解決の視点】

1. 連携、校外学修の成果等の単位認定
2. 目標を明確にし、ゆったりと時間をかけて育てる
3. 現状の校舎環境での教育活動がほぼ可能
4. 集めたい生徒像をできるだけ入試でしぼりたい (選抜要綱との関連)
5. 「特別支援」をキーワードに、行政支援を取り込んで特色化を図る

【摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案】

- ・ 定時制課程昼間部単位制
- ・ 3学期制 4年課程

募集定員

【検討案の視点】

1. 生徒の主たる課題に対応するカリキュラム
2. 摩耶兵庫の現状環境で教育活動ができる

【摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案】

- ・ 40人

教育課程

【検討案の視点】

1. 必修科目を最小限にし、学校設定科目を多く用意
2. 高校生活認知理解の時間確保
3. 体験学習 (実習) で対人コミュニケーション能力の養成
4. 生徒が次のステップに進める力を養成 (進学に特化しない)

【摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案】

- ・ 4年間を導入期 (1年次)、充実期 (2~3年次)、発展期 (4年次) に分ける
- ・ 特色としての「体験」(4単位) …1年次「野外実習」、2~4年次「社会実習」
- ・ 総合的な学習の時間でコミュニケーショントレーニングや自立支援プログラムの実施
- ・ 芸術の2倍増単位設定…情操教育
- ・ 3~4年次に学校設定科目 (各2単位) 配置し、情報や商業科目を参考にした内容実施

資料 15 平成 17 年度摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案

(課程、募集定員、教育課程) (2)

【摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会案 (教育課程の例)】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1 年次	国語総合	数学Ⅰ	英語Ⅰ	保健	情報A	音楽Ⅰ	体育	野外実習	習 の 時 間	総合的な学 習の時間	L H R									
						美術Ⅰ														
						書道Ⅰ														
2 年次	国語総合	数学Ⅰ	英語Ⅰ	日本史A	情報A	音楽Ⅰ	体育	学校設定科目 (社会体験・実習)	習 の 時 間	総合的な学 習の時間	L H R									
						美術Ⅰ														
						書道Ⅰ														
3 年次	国語表現	美術Ⅱ	理科基礎	世界史A	家庭総合	学校設定科 目 (情報科)	体育	学校設定科目 (社会体験・実習)	習 の 時 間	総合的な学 習の時間	L H R									
	オールコミュニ ケーションⅠ	情報C																		
4 年次	国語表現	美術Ⅱ	理科総合A	現代社会	家庭総合	学校設定科 目 (情報科)	体育	学校設定科目 (社会体験・実習)	習 の 時 間	総合的な学 習の時間	L H R									
	オールコミュニ ケーションⅠ	情報C																		

2クラス分割(除芸術科)

教科	科目	標準 単位	履修 単位	開講時間数				教科別 時数	教員 (人)	講師 時間
				1年	2年	3年	4年			
国語	国語総合	4	4	4	4			12	1	4
	○国語表現	2	2~4			2	2			
地歴	世界史A	2	2			4		12	1	4
	日本史A	2	2		4					
公民	現代社会	2	2				4			
数学	数学Ⅰ	3	4	4	4			8	1	
	理科	理科基礎	2	2			4			8
	理科総合A	2	2				4			
保健体育	体育	7~8	8	4	4	4	4	20	2	4
	保健	2	2	4						
芸術 (*選択)	*音楽Ⅰ	2	4	2	2			16		16
	*美術Ⅰ	2	4	2	2					
	*書道Ⅰ	2	4	2	2					
	△美術Ⅱ	2	2~4			2	2			
外国語	英語Ⅰ	3	4	4	4			12	1	4
	○オールコミュニケーションⅠ	2	2~4			2	2			
家庭科	家庭総合	4	4			4	4	8	1	
情報	情報A	2	4	4	4			20	2	4
	設定科目	2	4			4	4			
	△情報C	2	2~4			2	2			
	総合的な学習の時間	3~6	4							
	HR	4	4							
	計			30	30	28	28	116	10	36

資料 16 時程についての考え方

<午前始業の場合>……A

1. 部活動が重要な意味を持つという意見に応えられる時間の確保が可能
2. 社会人としての朝からの生活習慣の確立を図れる。
3. 昼間部と夜間部の生徒の活動が重ならない。(指導が重ならない。)
4. 昼間部と夜間部相互の指導が丁寧にできる。

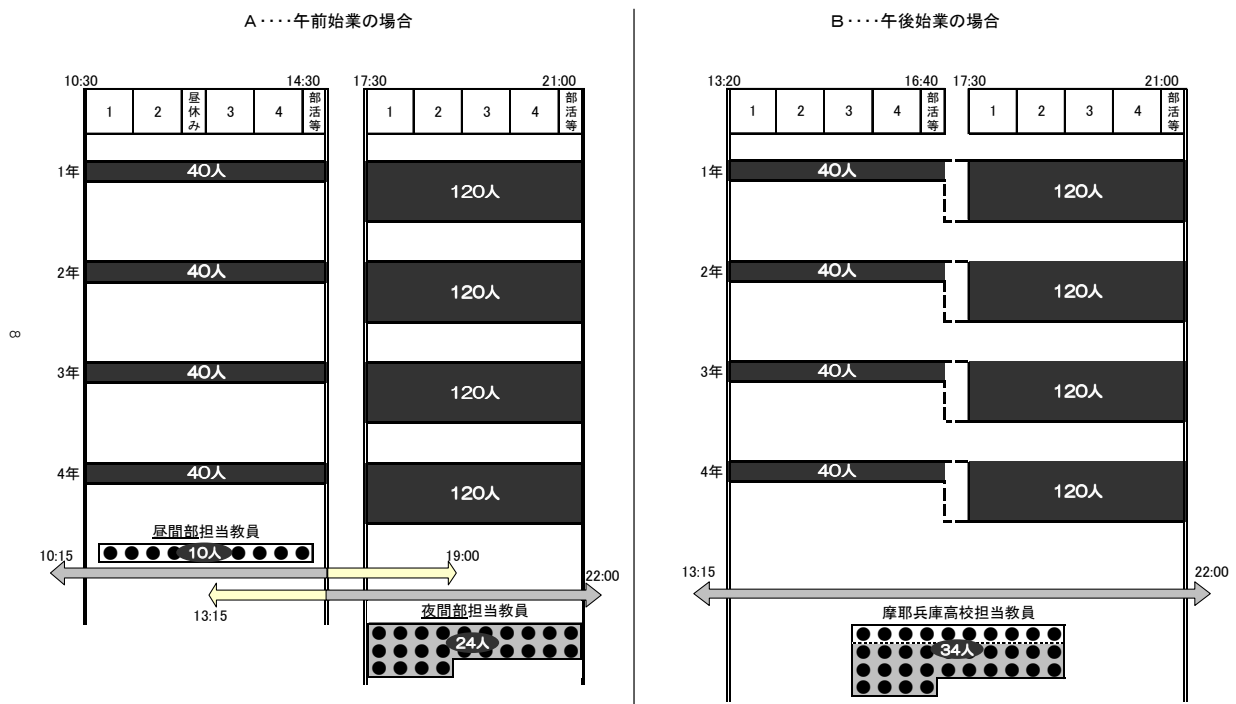
昼間部						夜間部				
10:30	11:25	12:50	13:45			17:30	18:30	19:25	20:15	
1限	2限	昼休み	3限	4限	ST・部活動等	1限	2限	3限	4限	部活動等
11:05	12:10		13:35	14:30	15:50	18:15	19:15	20:10	21:00	21:45

<午後始業の場合>……B

1. 朝から登校しなくていいため生徒の心理的な負担を軽減できる。
2. 神戸市全域から登下校しやすくするという観点からは午後開始の方がいい。
3. 社会との連携を強める観点からすると企業や社会が協力しやすい時間帯として午後にするべき。
4. 子どもの実態に合わせた段階的な配慮が必要だから少なくとも最初は午後開始とすべき。

昼間部					夜間部				
13:20	14:10	15:05	15:55		17:30	18:30	19:25	20:15	
1限	2限	3限	4限	部活動等	1限	2限	3限	4限	部活動等
14:05	14:55	15:50	16:40		18:15	19:15	20:10	21:00	21:45

<現状の教員数で運営を行う場合の検討案>



資料 17 「摩耶兵庫高校基本計画検討会案」と「第2回以後の議論を受けた検討案」

摩耶兵庫高校基本計画検討会案（平成 17 年 9 月）

＜対象生徒＞
学ぶ意欲を持ちながら、既存の学校に馴染み難い不登校経験生徒が中心

＜課程＞単位制 ＜定員＞40 人

＜教育理念＞
社会に出て自立できる生徒を“大きな学校”で育てる

＜教育目標＞
・基礎学力の定着・向上
・人間関係能力の育成

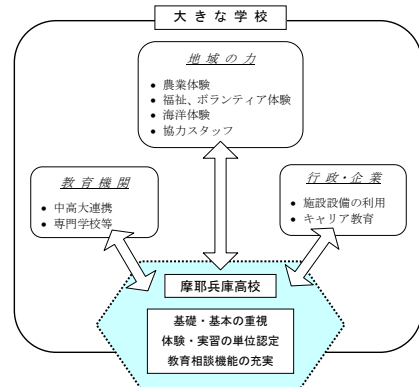
＜教育内容・方法＞
・基礎基本を重視し、体験・実習の学習を行う
・人間関係能力の向上を目指す取組みを行う

＜教育課程＞

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1 年次	国語総合	数学 I	英語 I	保健	情報 A	音楽 I	美術 I	書道 I	体育	野外実習	総合的な学習の時間	L	H	R						
2 年次	国語総合	数学 I	英語 I	日本史 A	情報 A	音楽 I	美術 I	書道 I	体育	学校設定科目 (社会体験・実習)	総合的な学習の時間	L	H	R						
3 年次	国語表現	美術 II	理科基礎	世界史 A	家庭総合	学校設定科目 (情報科)	体育	学校設定科目 (社会体験・実習)	総合的な学習の時間	L	H	R								
4 年次	国語表現	美術 II	理科総合 A	現代社会	家庭総合	学校設定科目 (情報科)	体育	学校設定科目 (社会体験・実習)	総合的な学習の時間	L	H	R								

＜時程＞

昼間部						夜間部				
10:30	11:25	12:50	13:45	17:30	18:30	19:25	20:15			
1限	2限	昼休み	3限	4限	ST・部活動等	1限	2限	3限	4限	部活動等
11:05	12:10	13:35	14:30	15:50		18:15	19:15	20:10	21:00	21:45



学校イメージ

第 2 回以後の議論を受けた検討案

＜教育理念＞
自立できる生徒を社会と共に育てる
——学習意欲があり不登校を経験した者等、本校の教育活動を通じて自らの可能性を伸ばしたいと考えている生徒を、校外の様々な機関と連携し社会と共に育てることを基本とする——

＜課程＞学年制 ＜定員＞40 人

＜教育目標＞
・基礎学力の定着・向上
・人間関係能力の育成

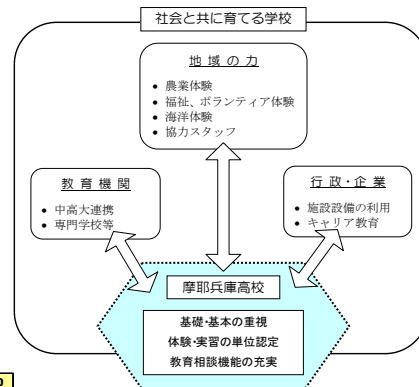
＜教育内容・方法＞
・基礎基本を重視し、体験・実習の学習を行う
・人間関係能力の向上を目指す取組みを行う

＜教育課程＞

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1 年	国語総合	数学 I	英語 I	保健	情報 A	音楽 I	美術 I	書道 I	体育	国語理解	数学理解	英語理解	社会体験・文化・体育活動	文	総合的な学習の時間	L	H	R		
2 年	国語総合	理科総合 A	保健	世界史 A	体育	英語 I	歴史理解	国語表現 I	資格関連科目	社会体験・文化・体育活動	文	総合的な学習の時間	L	H	R					
3 年	理科総合 B	日本史 A	家庭基礎	体育	現代社会	古典講読	オールラウンドコミュニケーション I	資格関連科目	社会体験・文化・体育活動	文	総合的な学習の時間	L	H	R						
4 年	現代文	現代文	美術 II	英語理解 II	社会福祉基礎	ビジネス基礎	高大・高等連携講座科目	高大・高等連携講座科目	社会体験・文化・体育活動	文	総合的な学習の時間	L	H	R						
	リーディング	リーディング	情報 C	数学 A																

＜時程＞

昼間部					夜間部				
13:20	14:10	15:05	15:55	17:30	18:30	19:25	20:15		
1限	2限	3限	4限	部活動等	1限	2限	3限	4限	部活動等
14:05	14:55	15:50	16:40		18:15	19:15	20:10	21:00	21:45



学校イメージ

資料 18 摩耶兵庫高校昼間部検討会要綱

平成 20 年 6 月 27 日 決定

(趣旨)

第 1 条 摩耶兵庫高校における昼間部について検討するため、「摩耶兵庫高校昼間部検討会」(以下「検討会」という)を設置する。

(組織)

第 2 条 検討会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 摩耶兵庫高等学校校長
- (3) 摩耶兵庫高等学校代表教員
- (4) 神戸市立高等学校校長会代表
- (5) 神戸市立中学校校長会代表
- (6) 保護者代表
- (7) 教員代表

(座長)

第 3 条 検討会に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選により選出する。
- 3 座長は、検討会を総理し、会議の議長となる。
- 4 座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、あらかじめ座長が指名する委員が、その職務を代理する。

(期間)

第 4 条 検討会の設置期間は平成 21 年 3 月 31 日までとする。ただし座長が必要と認めた場合は期間を延長することができる。

(会議)

第 5 条 座長は、検討会を招集する。

- 2 検討会は、委員の過半数の出席がなければ、開くことができない。
- 3 座長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。
- 4 会議は原則公開とするが、検討会の決するところにより非公開とすることができる。

(庶務)

第 6 条 検討会の庶務は、教育委員会事務局総務部学校再開発・振興室において処理する。

(雑則)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営等に関して必要な事項は、座長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成 20 年 6 月 27 日から施行する。

資料 19 摩耶兵庫高校昼間部検討会 委員名簿

伊藤 善文	摩耶兵庫高等学校校長
香川 千晶	摩耶兵庫高等学校養護教諭
来代 剛行	市立中学教諭代表（魚崎中学校）
黒川 信夫	市立高等学校教諭代表（楠高等学校）
後藤 健一	摩耶兵庫高等学校教諭
杉山 精一	神戸市外国語大学准教授……………座長代行
田中 一好	神戸市立高等学校校長会（葺合高等学校校長）
谷川 新一	市立高等学校教諭代表（摩耶兵庫高等学校）
南平 榮一	特定非営利法人こうべユースネット専務理事
西村 満枝	摩耶兵庫高等学校保護者代表
則長 満	追手門学院大学経済学部准教授……………座長
服部 佳朗	摩耶兵庫高等学校教諭
福場 逸子	神戸市立中学校校長会（須磨北中学校校長）

(以上 13 名)

資料 20 摩耶兵庫高校昼間部検討会審議経過

会議	日程	場所	審議内容
第1回	平成20年6月27日(金) 15:30～17:30	神戸市総合教育 センター701号室	(1) 検討会設置の趣旨説明、運営方法等 (2) 市立高校教育改革の経緯と実績 (3) 昼間部の必要性 (4) 昼間部についての検討経緯 (5) 摩耶兵庫高校昼間部基本計画検討会 での検討内容 (6) 今後のスケジュール
第2回	平成20年7月25日(金) 15:00～16:50	神戸市青少年会館 研修室	(1) 第1回会議要録 (2) 摩耶兵庫高校昼間部の考え方 ○「生徒像」「教育理念」「教育目標」 についての基本計画検討会での検 討経緯 ○「教育内容・方法」「時程」につい ての基本計画検討会での検討経緯 (3) 今後のスケジュール
第3回	平成20年8月26日(火) 15:00～16:45	神戸市総合教育 センター701号室	(1) 第2回会議要録 (2) 摩耶兵庫高校昼間部の考え方 ○「生徒像」「教育理念」「教育目標」 「教育内容・方法」「時程」につい ての検討案 ○「課程」「募集定員」「教育課程」 についての基本計画検討会での検 討経緯 (3) 今後のスケジュール
第4回	平成20年9月22日(月) 14:55～16:55	神戸市総合教育 センター701号室	(1) 第3回会議要録 (2) 摩耶兵庫高校昼間部の考え方 ○「課程」「募集定員」「教育課程」 についての検討案 ○「時程」についての検討 (3) 今後のスケジュール
第5回	平成20年11月17日(月) 15:25～16:55	神戸市総合教育 センター806号室	(1) 第4回会議要録 (2) 摩耶兵庫高校における説明会の実施 報告 (3) 議論のまとめ

摩耶兵庫高校昼間部検討会報告書

平成 20 年 12 月発行

摩耶兵庫高校昼間部検討会